

橋梁工事ということもあり現場は40mを超える高所。すぐ隣の既設道路上には車が行き交う。



GENBA INNOVATION

現場イノベーション

創意工夫に富む現場の取組みやマネジメントの最前線を追う!!

若手職員が積極的に経験を積める現場で未来の技術力を育てる

東海北陸自動車道 上原橋(上・下部工)工事



工事概要

工事名 東海北陸自動車道 上原橋(上・下部工)工事
 路線名 東海北陸自動車道
 工事場所 富山県南砺市内
 発注者 中日本高速道路(株) 金沢支社
 施工 オリエンタル白石(株)
 工期 2019年3月12日～2022年2月23日

工事内容

- ・橋梁上部工
橋長349m、幅員9.26m
PRC4径間連続ラーメン箱桁橋(波形鋼板ウェブ)
- ・橋梁下部工
5基(A1、P1、P2、P3、A2)
- ・工事用道路及び排水構造物 1式
- ・工事用仮橋



現場の完成イメージ。手前が現在建設中の橋脚。(提供:オリエンタル白石(株))

「写真や図面のデータはスマートフォンやタブレットなど、デジタルツールで管理しています。日頃から使っているもので、すぐに慣れました」

車線拡張工事の場合、現場のすぐ横には高速道路本線が通っている。加えて、この現場は山の麓に位置するため冬季は積雪量が多く、雪で作業に支障が出ることも少なくない。円滑な進行には、周辺状況も含めた情報共有が欠かせないが、ここでもデジタルツールが一役買っていると、青木所長は話す。

「高速道路本線を除雪車が通る際、雪が落ちてくることもあるため、現場にいる人たちに退避等を促す必

「環境をしっかりと整えた上で、女性でも基本的には特別扱いをせずに働いてもらっています。既に、現場に女性がいることは当たり前になっています」

「男性が多い職場ではありませんが、特に意識せずに働くことができます。入った時からトイレ等の環境も整っていたので不自由を感じたことはないですね」

青木所長もこう言葉を継ぐ。

「現場をしっかりと整えた上で、女性でも基本的には特別扱いをせずに働いてもらっています。既に、現場に女性がいることは当たり前になっています」

ツールのスムーズな活用だ。本田さんがこう話す。

「この現場では、職員の半数近くが二〇代です。これからの建設業界では、彼ら若手の力が不可欠です」

若手の多い現場だからこそその利点として挙げられるのが、デジタル

「この現場では、職員の半数近くが二〇代です。これからの建設業界では、彼ら若手の力が不可欠です」

若手の多い現場だからこそその利点として挙げられるのが、デジタル

「配属されてすぐの頃は何をやるのか、あまりわかっていなかったと思います。自分で手を動かしたい

この事業の一部である上原橋の架設が、富山県南砺市で進む。上下部一体の橋梁工事を請け負うオリエンタル白石(株)の本田真和さんは、入社三年目。現在は下部工の現場監督を務めており、技能者との日々のコミュニケーションは欠かせない。

「この現場では、職員の半数近くが二〇代です。これからの建設業界では、彼ら若手の力が不可欠です」

若手の多い現場だからこそその利点として挙げられるのが、デジタル

デジタルツールと若手相乗効果が効率を高める

愛知県一宮市から岐阜県を経由して富山県砺波市へと至る東海北陸自動車道。山中部にある飛騨清見インターチェンジ以北は対面通行区間(暫定二車線)が続くため、四車線化の拡張工事が進められている。これにより安全性や走行性の向上など、機能強化が期待される。

この事業の一部である上原橋の架設が、富山県南砺市で進む。上下部一体の橋梁工事を請け負うオリエンタル白石(株)の本田真和さんは、入社三年目。現在は下部工の現場監督を務めており、技能者との日々のコミュニケーションは欠かせない。

「この現場では、職員の半数近くが二〇代です。これからの建設業界では、彼ら若手の力が不可欠です」

若手の多い現場だからこそその利点として挙げられるのが、デジタル



オリエンタル白石株式会社 東海北陸自動車道 上原橋(上・下部工)工事 担当技術者 本田 真和 Mao Honda

職員の半数近くを二〇代の若手が占める橋梁工事現場。ここでは若手職員が伸び伸びと働き、将来につながる技術力を身に付けることを目指している。「LINEもワークライフバランスも当たり前」と語る所長と、当事者である二〇代の職員に、現場のリアルな話を伺った。

現場は山々に囲まれ、辺りには水田が広がる。



施工管理者には、図面から読み取れる情報や今後の工程など様々な要素を総合的に考え、判断することが求められる。同僚との情報共有も重要だ。



下部工仮棧橋架設の様子。(提供:オリエンタル白石様)

「価値ある経験」を積み重ね 未体験の現場でも 予測して動ける力を身に付ける



上／些細なことも常に連絡を取り合う姿勢が安全管理につながるという。
左／現場の写真はその場でスマートフォンを使い撮影。デジタルツールの活用はもはや日常だ。

若手職員にとって恵まれた環境で働く本田さん。一方で、現場に出て、自らの指示で現場を管理する難しさや安全管理の大切さも日々痛感しているという。

「将来的には自分一人で課題を解決できる現場監督になりたいです。技能者さんから質問された時に、何でも即座に答えることができ、信頼されることが理想です。また、安全管理についてはまだまだできていない部分もあり、反省しています。ジャッジは常に厳しく、「ダメなものダメ」としっかりと言うことを徹底したいです」

青木所長は最後に、本田さんを含めた現場の若手職員の未来についてこう展望してくれた。

「ここで経験を積んで、先の工程を意識できる技術者になってほしいですね。それができれば自ずと何が必要なか、何をすべきなのかが



検査業務に励む若手職員。尊敬し合える仲間の存在は大きい。

一度に二つの 工事を見る現場

将来の建設業を担う若手職員が長く働き続けることができる職場であるために、青木所長は環境作りと育成・技術継承を重視していると話す。

「『環境』と一言で言っても様々な側面があると思っています。それは現場のなかだけにあるとは限りません。例えば休暇制度。完全な週休二日はまだ難しいのが現状ですが、平日でも休める時はフレキシブルに休みを取れるようにしています。昔のようなスタイルではなく、プライベートも楽しんでこそその仕事だと考えています」

育成・技術継承については、上原橋工事の大きな特徴である、上・下



オリエンタル白石株式会社
東海北陸自動車道
上原橋(上・下部工)工事
現場代理人
青木 康弘 Yasuhiro Aoki

部一体型であることを生かしたいという。

「上・下部一体型の現場はそれほど多くありません。ここでは、一度に二つの現場を間近で見えて、学ぶことができるため、若手にとって非常に価値ある経験が積めると思います。はじめのうちはどうしても、目の前の作業に集中してしまいがちです。ですから、それぞれの工事がどのようにに関わり合い、どういった流れで施工が進んでいくのか。実際に見て、多くのことを学び、自分の引き出しを増やしてほしいです。わからないことがあれば積極的に聞いてくれればと思います」



下部工工事の様子。(提供:オリエンタル白石株)

はつきりします。そして、二年、三年と経験を積み重ねていくことで、初めて経験する現場に行っても、ある程度流れが想像でき、その後の工程

をスムーズに進めることができるようになります。未来の自分と周りの人たちのために、この小さな積み重ねを続けていってほしいです」

Webサイト「WorkStyle Lab」で動く現場を見よう!!

建設業界の働き方改革を伝えるサイト「WorkStyle Lab」では、「現場イノベーション」と連動したコンテンツを随時掲載中です。取材先の更に詳しい取り組みやこぼれ話など、誌面に載せきれなかった内容を動画などで紹介します。所長さんや副所長さんなどの想いを生の声で、また実際の工事現場の様子を臨場感あふれる動画でぜひご覧ください。たくさんアクセスお待ちしております。



WorkStyle Lab
<https://www.nikkenren.com/2days/workstylelab/>

